

慈明院寺報十二月号

ドラゴン・キング・ラビツツ

はや師走、ウサギ年の今年も残り少なくなった。来年は辰年

龍である。何か龍にまつわる話はないかな?探していたら身近な所に

「龍王ウサギ」という民話を見つけた。福岡市西区・姪浜に伝わるお話である。

その昔、宋(中国)の国に渡つて修行した南浦紹明という僧がおりました。

彼は八年間、虚堂禪師について学び、ようやく帰国する事を許されました。

帰国する船に乗るには、山を二つ越えて港に行かねばなりません。翌朝の船に

乗船する為、夜遅くに出発しました。

二つ目の山にさしかかると、月に照らされた山道に一匹の白いウサギが出てきました。ウサギはひどくおびえています。すると、ウサギを追つて獣の声が迫つてきました。よく見れば、腹を空かせた数匹の狼が近づいてきました。

南浦紹明は急いでウサギを懐(ふところ)に入れました。そしておもむろにお経を唱えました。その念力に打たれたのか、狼は山深くに帰つて行きました。そしてウサギを懐から出して、逃がそうとしましたがウサギは逃げません。一緒に日本に連れて帰る事にしました。

翌朝、無事に船に乗る事ができました。しかし、玄界灘で船が暴風雨に遭いました。いまにも難破(なんぱ)しそうになりました。するとウサギが荒れる海に身を投じました。たちまち荒波がビタリとおさまって、船は無事姪浜の港に帰る事ができました。ほつとして空を見上げるとウサギがきらきらと金色に光り輝いて、空高く舞い上がつたかと思うと、やがて龍王の姿となつて天に消えていつたのでした。

その後、南浦紹明は姪浜に興徳寺というお寺を開き、臨濟宗の名僧として大應國師(だいおうこくし)と呼ばれるほどの活躍をしたそうな。現在、姪浜駅南口に存在するモニユメントは、この話をモチーフにした「ドラゴン・キング・ラビツツ」という作品なのだそうだ。ウサギが龍に変わつて今年も暮れていく。住職 合掌



正月元旦、恒例の「令和六年 初大黒天 護摩祈願法会」を左記日時にて奉行致します。皆様のご参拝をお待ちしております。(詳しくは別紙参照)

一番座 一月一日 午前0時より(大晦日の夜中二時より) (正月元旦のお昼十四時より)

*古いお札・お守り等、当日お持ち下さい。後日供養致します。

*紅白もち、縁起物のお菓子をお接待致します。

(来年)令和六年の年忌について

一周忌	令和五年	逝去	来年 令和六年に年忌を迎える
三回忌	令和四年	リ	仏様の亡くなられた年の一覧です。
七回忌	平成三十年	リ	参考にして頂き、法事の希望など
十三回忌	同二十四年	リ	ございましたら、電話でご連絡下さい
十七回忌	同二十年	リ	ませ。
二十三回忌	同十四年	リ	
二十五回忌	同十二年	リ	
二十七回忌	同十年	リ	
三十三回忌	同四年	リ	
三十七回忌	昭和六十三年	リ	
五十年	リ		年忌の法事はご命日より前に行う
五十年	リ		場合が多いですが、必ず前でなければ
五十年	リ		ならないという訳でもありません。
三十年	リ		命日を過ぎて、ご法事をなさつても
三十年	リ		大丈夫ですし、都合の良い日にはご供養して頂ければと思います。
十四年	リ		
十四年	リ		

* (昭和六十四年) は (平成元年)

(平成三十一年) は (令和元年) と同年。

慈明院(じみょういん) 〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一-二〇
TEL(092)804-4570 FAX(092)804-4605
住職・吉住大慈(よしうみだいじ) 携帯電話〇九〇一(五二八一)一七四九四